

北海道におけるオニアジサシの初記録

池田徹也^{1*}・川崎康弘^{2**}

1. 〒065-0024札幌市東区北24条東16丁目3-1-301

2. 〒099-4115斜里郡斜里町光陽町31-16

オニアジサシ *Hydroprogne caspia* は、ヨーロッパ・中央アジア・中近東・アフリカ・北アメリカ・オーストラリアで繁殖する大型のアジサシ類で、日本ではまれな旅鳥または冬鳥として本州以南の各地で記録があり、南西諸島では比較的記録が多いとされる種である(桐原ほか 2000, 真木・大西 2000)。Brazil(1991)は、本種の最北の記録として宮城県伊豆沼での記録を挙げており、日本鳥類目録改訂第6版(日本鳥類目録編集委員会 2000)にも宮城県以北の記録は収録されていない。また、北海道を対象とした、河井ほか(2003)、北海道新聞社(2002)、藤巻(2000)にも本種は収録されていない。著者の1人である池田は、オニアジサシと思われる個体を2001年5月19日に北海道網走市にある溝沸湖において観察・撮影し、画像を添付した上で日本野鳥の会オホーツク支部のWEBサイトへ報告した。画像はサイト管理者である川崎が受理し、サイト内に日付・観察地を付記した上で掲載したが、北海道初であり日本最北の確認例と思われるこの記録の重要性を鑑み、ここにあらためて詳細を報告する。なお、アジア極東地域という視点では、さらに北のロシア・サハリン州でも記録があり(ネチャエフ・藤巻 1995, Artukhin & Burkanov 1999)、本件はそれに次ぐ2番目に北



図1. 北海道網走市溝沸湖で観察されたオニアジサシ

Fig. 1. The Caspian Tern observed at Tofutsu Lake, Hokkaido, northern Japan.

2004年8月15日 受理

キーワード: オニアジサシ, 観察記録, 溝沸湖, 北海道

* 日本野鳥の会十勝支部

** 日本野鳥の会オホーツク支部

本論文のカラー写真を<http://www.wbsj.org/nature/database/strix/23/ikeda.html>でみることができます

での確認例であると思われる。

本個体は、2001年 5月19日の正午前、網走市北浜の濤沸湖にて観察・撮影された(図 1)。観察地は同湖の西端、オホーツク海に流れを注ぐ湖口から500mほど上流に位置し、冬期にオオハクチョウへの給餌を行なっていることで知られる、「白鳥公園」として呼ばれている一角である。

オニアジサシと思われる個体は、湖岸の観察地点から100mほど南の干潟の縁部(43°57'03"N, 144°21'33"E)に降りているところを発見された。30倍のフィールドスコープで観察したところ、1:周囲にいたハシビロガモと比較してほぼ同大、2:横に長い体型で姿勢は地面に対して水平に近い、3:頭部を除いてほぼ全体に白っぽく見える、4:嘴は長大で赤い、ことが認められ、これらの外見上の特徴はオニアジサシ以外のアジサシ類にはない特徴なので、オニアジサシと判断した。

本個体は頭部が一様に黒かったため、成鳥夏羽と考えられる。しかしながら、干潟に静止した状態でほとんど動かず、時折飛び立つことがあってもまたすぐに同じ位置へ舞い降りて休息していたため、よく類似した第 2回夏羽との差異、すなわち、翼上面の外側初列風切がより暗色で、淡色の内側初列風切との対比が目立つ(Olsen & Larsson 1995)などといった部位の状態を十分に観察できなかったことから、第 2回夏羽の個体であった可能性も否定できない。

池田は12:30頃まで観察を続けたのち、一時現地を離れ13:00頃に戻ったが、この時には、再確認できなかった。なお、川崎は当日の10:40~11:10までシギチドリ類の個体数調査のため現地を訪れていたが、本個体を確認できなかった。また、翌日以降も同湖周辺において本種を観察したという事例は日本野鳥の会オホーツク支部に報告されておらず、このため、本個体は池田が確認した正午前後の正味30~40分間のみ、現地に滞在したものと思われる。

わずかに休息しただけで飛去したと思われることから、衰弱した状況ではなかったことが示唆される。気象庁電子閲覧室(<http://www.data.kishou.go.jp/index.htm>)によると当日までの数日間、網走地方は比較的穏やかな天候が続いていたことから、本個体の当地への飛来が直接的に低気圧などの気象の影響を受けたものとは考えにくい。春の移動期に、何らかの理由で本来の渡り経路から外れてしまった個体が、迷った末に一時的に休息するために、現地へ舞い降りたと考えるのが妥当と思われる。

引用文献

- Artukhin, Y.B. & Burkanov, V.N. 1999. Sea Birds and Mammals of Russia's Far East. AST, Moscow.
(in Russian)
- Brazil, M.A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London.
- 藤巻裕蔵. 2000. 北海道鳥類目録改訂 2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室, 帯広市.
- 北海道新聞社(編). 2002. 北海道の野鳥. 北海道新聞社, 札幌市.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳. 2003. 北海道野鳥図鑑. 亜璃西社, 札幌市.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥550水辺の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.

- ネチャエフ, V.A.・藤巻裕蔵. 1995. サハリンの鳥類 1. 極東鳥類研究会, 帯広市.
日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会, 帯広市.
Olsen, K.M. & Larsson, H. 1995. Terns of Europe and North America. Christopher Helm, London.

The first record of Caspian Tern from Hokkaido, Japan

Tetsuya Ikeda & Yasuhiro Kawasaki

1. 3-1-301 Higashi 16 chome, Kita 24jo, Higashi-ku, Sapporo, Hokkaido 065-0024, Japan
2. 31-16 Koyo-cho, Shari-cho, Shari-gun, Hokkaido 099-4115, Japan

A Caspian Tern *Hydroprogne caspia* was observed in Toufutsu Lake ($43^{\circ}57'03''\text{N}$, $144^{\circ}21'33''\text{E}$), Hokkaido on May 19, 2001. This is the first record in Hokkaido, and the northernmost record in Japan. This is the second record for northern northeast Asia following one for Sakhalin, Russia.

Key words: Caspian Tern, Hokkaido, *Hydroprogne caspia*

